

# 近本

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU



[特集]

## 一味違う 赤穂浪士 たち



札幌市教育文化会館

札幌市教育文化会館情報誌「らく」は舞台芸術を気軽に楽しんでいただきたいという思いを込めて名付けられました。



特集

# 笑う門には福来たる 一味違おう 赤穂浪士たち

笑う門には福来たる

近年、「笑いは健康に効果がある」ということが医学的にも証明され、脳の活性化や免疫力の強化、自然治癒力の向上などに活かされるようになってきました。笑いの本場大阪では、笑いを医療や福祉の現場に活かす「笑い」と健康推進事業を府の事業として平成17、18年に行っており、漫才師や落語家などに協力を仰いで医療・福祉現場のスタッフや高齢者などに笑いを誘う話術を指導。また、「笑い」と健康をコンセプトにした高齢者の運動教室でも参加する1年前と比較して通院日数が8%、医療費が23%減少しました。

こうした流れを受け、福井県でも平成19年から同様の事業が進められており、関西大学(大阪)

と連携して「関大ふくい笑い講を開くなど、笑いを健康に役立てるよう活用しています。実際、漫才を見て3時間ほど大笑いした後に血液成分を調べるといふ実験をした結果、ナチュラルキラー細胞と呼ばれる、ガン細胞を殺す働きを持つ細胞が活性化することがわかりました。また、同様の実験で糖尿病患者の血糖値上昇の大幅抑制やリウマチ患者の症状緩和にも効果があるという結果も出ています。それだけではなく、何も見たり聞いたりしないまま、ただひたすら壁に向かって笑顔を2時間続けるだけで、免疫力が向上することも確認されています。つまり、たとえ作り笑いだとしても「笑うこと」は健康に効果的だというわけです。

さて、札幌には全国でも極めて珍しい、教育文化会館から誕生した市民喜劇団「教文13丁目笑劇一座」があります。最近の公演で演じているのは日本人が大好きな、ご存知「忠臣蔵」。

主君の仇をとるために我慢に我慢を重ね、遂に仇討ちを果たすという感動的なストーリーも、笑劇一座の手にかければ極上のコメディです。笑いあり涙ありの笑劇一座の「スパーク! 忠臣蔵!」。

作り笑いでもいいですが、心からたつぷりと笑ってナチュラルな笑い……、もとい、ナチュラルキラー細胞を活性化させましょう。

## スパーク! 忠臣蔵!

### 【あらすじ】

元禄15年12月15日の未明、江戸の中心地からはずれた本所の吉良邸に、元赤穂藩士・大石内蔵助以下47名の浪士が討ち入り姿で集結。

そして「狙うは吉良上野介の御首ひとつ! 方々、ゆめゆめこ油断召されるな!」との大石の号令で討ち入りは開始された。

吉良邸を守る武士達と攻め入る赤穂浪士。亡き主君の無念を思う気持ちからか、深夜の戦いは徐々に赤穂浪士達が優勢になってゆく。

「さあ、グズグズしておるといつ上杉家の者達が来るかも知れん。吉良上野介を早急に捜しだすのじゃ。」

必死に邸内を捜す浪士達。しかし、吉良は見つからず、時間だけが刻々と過ぎてゆく。焦る赤穂浪士達。

と、その時、ピョッと吉良発見の合図の笛が鳴り響いた。そして、赤穂浪士達数人が一人の老人を両脇から抱えて引き連れてきた。

「拙者、元赤穂藩家老、大石内蔵助と申すもの。貴殿は吉良上野介様ではございませんか?」

「いやいや、わすはそんなもんじゃねえ。」

「それじゃ、誰だ君は。」

「うん? 誰だチミは……ってか?」

「うん? 誰だチミは……ってか?」

そうです。ワタシが変なオジサンです!

ということでもドタバタ忠臣蔵のはじまりはじまり。

舞台はここから吉良の回想に。こののはじまりは松の廊下での浅野内匠頭との刃傷沙汰。新しい解釈での吉良と浅野のやりとりがあり、浅野は切腹、城領地は幕府に明け渡し。だが、吉良はお咎めなし。

おさまらないのは赤穂藩士。主君、浅野内匠頭を追って切腹を主張する者と、大人しく城や領地を幕府に渡すことを主張する者にと別れスタモンタがあり、仇討ちが決定するが……。

喜劇と言ってもただバカバカしいだけではなく、大石内蔵助と妻りく、大石の息子・主税と恋人・朝路、江戸で働く神崎与五郎と恋人・お絹そして浅野の妻・遙泉院と大石をはじめとする赤穂浪士達との、それぞれの別れが涙を誘う。

当たり前の忠臣蔵には登場しないキャラクター達も所狭しと暴れ回り、あんなドラマやこんなミュージカルっぽいシーンも満載。笑いあり涙もちよっとありの「スパーク! 忠臣蔵!」をぜひ、劇場で。



喜劇  
「スパーク! 忠臣蔵!」

作・演出/ 棚田 満 (劇団怪獣無法地帯)  
出演/ 教文13丁目笑劇一座  
11月7日に教文13丁目笑劇場にて上演した演目の再演です。

【日程】2011年1月16日(日) 14:00開演  
【会場】北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」

料金 全席自由 500円(税込)

お問い合わせ 011-370-7373(夢プラザ)

## スパーク! 忠臣蔵!

### — 主な登場人物 —

※カッコ内は演者(1月7日現在)

大石内蔵助 (ハリ)

元赤穂藩家老。当初は浅野家再興のために奔走するも叶わず、主君の無念を晴らすため、切腹覚悟で仇討ちを企てる。責任が及ぶのを避けるために、妻りくとは離縁する。

吉良上野介 (マリオ)

浅野内匠頭に対して、賄賂を要求したとか、いじめたとか「田舎持と罵ったとか、諸説あるが、どうもイヤミなおじさまだったことには違いないみたい。

浅野内匠頭 (チヤチャン)

播磨赤穂藩現在の兵庫赤穂市周辺、第3代藩主。江戸城松の廊下で刃傷沙汰を起こす。非常に短気だったようで、実は吉良に切りつけた理由もはっきりしていない。

大石主税 (ヤシン)

大石内蔵助の長男。元服したばかりの16歳で討ち入りに参加。劇中では名を変えて生きのびるが、史実では他の浪士と同様に切腹している。

神崎与五郎 (カズミ)

赤穂藩では最も地位の低い藩士だったが主君の仇討ちを果たすため、江戸に潜入。商人となって吉良の動向を探っていたが、町娘のお絹さんという仲。

遙泉院 (こゆき)

浅野内匠頭の妻。討ち入り直前の大石内蔵助が遙泉院に挨拶に赴く「南部坂雪の別れ」は時代劇ファンには有名なワンシーン。





教文ワークショップ レビュー

# Kyobun Work Shop

#  
03

演劇、オペラ、ダンス。知れば知るほど深まっていく舞台の世界。「観ているだけじゃつまらない」「実際に体験してみたい」そんな皆さまの好奇心にお応えするのが札幌市教育文化会館のワークショップです。

## 子どものための オペレッタワークショップ

オペレッタとはイタリア語で「小さなオペラ」という意味で、オペラと同じようにセリフと踊りのある歌劇です。今年で7回目を迎える「子どものためのオペレッタワークショップ」。今年は「小人の靴屋」に挑戦します。



プロの指揮者や歌手との練習は、楽しい中にも適度な緊張感が漂い、子ども達の表情も真剣そのもの。

子どもの頃からオペレッタを体験することで演じることや歌うことの楽しさを知ってもらうという目的で始まった「子どものためのオペレッタワークショップ」も今年で7回目。今年には参加希望者がいつも増して多く、初めて受講生を抽選したほど、年々定着してきました。60人のメンバーは小学3年生から高校生まで札幌市内各所の学校から集まった子ども達。学区や学年の垣根もないほど仲が良く、口々に「友だちがたくさんでできた！」「すごく楽しい！」と笑顔が絶えません。

もちろん練習の時は真剣そのもの。ソプラノ、メゾソプラノ、アルトなどの各パートに分かれ、クオリティを高めていきます。半数以上が初心者ですが、そのハーモニーは美しく揃っています。子ども達を教えるのはNPO法人札幌室内歌劇場に所属するプロの指揮者や演奏家、歌手の皆さん。札幌を中心に、オペラ文化を発信し社会に広げる活動をしている団体で、「上手になることが全てではなく、楽しいから歌いたいと感じてもらい、

子どもの自主性を発揮できる場にしたい」という考えのもと、指導を続けています。オペレッタは歌劇なので、「小人の靴屋」でも、靴屋と小人の他に、お手持ちの客町の肉屋、パン屋、花屋など、さまざまな役があります。子ども達が自分の希望する役をアピールする場として、チャレンジタイムが設けられています。やりたい役のソロパートの時に手を挙げて自らみんなの前に出て歌うのです。なかなか勇気がいることですが、多くの子ども達が自主的に名乗りを挙げていきます。



子どものためのオペレッタ ワークショップ発表公演

### 小人の靴屋

日程 / 平成23年1月10日(月・祝)  
1回目公演14:00～ 2回目公演16:00～  
(各回開場は開演30分前)

会場 / 札幌市教育文化会館 小ホール  
入場料 / 全席自由 一般 1,000円 高校生以下 500円

※3歳未満は無料。ただし座席を必要とする場合はチケットをご購入ください。

チケット / 教文プレイガイド 011-271-3355(直通)

お問合せ：札幌市教育文化会館事業課 011-271-5822



年齢も学区も違う子ども達が、一緒にひとつのものを創る姿は感動的。

